

## 中高生向け職場訪問Webサイト「エイベックスへ行こう! ~勉強が遊びで遊びが勉強~」開設

昨今「総合的な学習」の一環として、研修旅行の際等に中高生が企業を訪問し、社会の仕組みや職業に関して学習するケースが増加しています。

当社ではこれまでも、エイベックス・グループの事業やエンタテインメント業界に興味を持つ中高生の職場訪問を積極的に受け入れてきましたが、今後こうした取り組みをより積極化すべく、2007年9月、当社への職場訪問を希望する中高生に向けた専用サイト「エイベックスへ行こう! ~勉強が遊びで遊びが勉強~」を開設しました。訪問時のプログラムや申し込み方法などがひと目で分かる内容となっています。

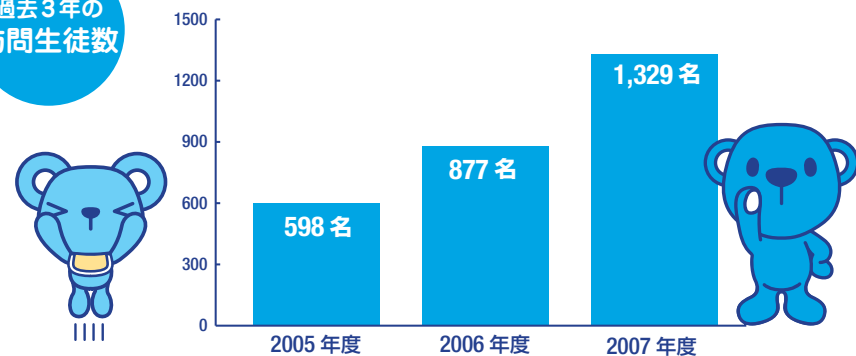
同サイトの開設及び当社の職場訪問受け入れ活動は、新聞等多数のメディアに取り上げられ、訪問生徒数が大幅に増加、2007年4月から2008年3月の間に訪問した生徒数は1,000名を越えました。

今後も、音楽・映像業界の将来を担う中高生の皆様に「職業としてのエンタテインメント」の魅力を伝えられるよう、同活動に注力していく予定です。



<http://www.avex.co.jp/avexgo/>

過去3年の訪問生徒数



### 訪問いただいた中高生の皆様の声

- 一番印象に残ったのは、倅田来未さんが受賞した日本レコード大賞の賞状を見せてくれたことです。本当に嬉しかったです。
- エイベックスが音楽を作っているだけでなく、総合エンタテインメント企業として、「みんなを楽しませること」を考えている会社ということがわかりました。
- 私は、アーティストになりたいと思っていますが、エイベックスさんに行って更に頑張ろうという気持ちになりました。

### 代表取締役 松浦勝人から中高生へのメッセージ

僕はレンタルレコード屋でバイトを始め、これがきっかけとなって大学在学中にエイベックスを設立しました。皆さんはまだ将来の職業について、まだ考えがまとまってないかも知れませんが、焦る必要はないと思います。僕は好きなことに一生懸命取り組んできただけで、エンタテインメント会社の

社長になろうなんて夢にも思っていませんでしたから(笑) 皆さんにとってエイベックスへの訪問が、「エンタテインメント業界で働きたい!」と思うきっかけになれば幸いです。

※職場訪問専用サイトより抜粋



# avex smile news 2008

## avex smileとは?

「エンタテインメントを通じて、笑顔を創りたい」という思いから始まったエイベックスの新プロジェクトです。株主、ユーザー、取引先、従業員といったステークホルダーのみならず、あらゆる人々の笑顔を創り出せるよう、地域振興やエコロジー活動等、幅広い展開を行っていく予定です。

## 「a-nation'07 powered by ウイダー inゼリー」における取り組み

大型野外ライブ・サーキット「a-nation'07 powered by ウイダー inゼリー」において、昨年度、当社はエコバッグの配布やゴミの分別を呼びかける「エコステーション」設置等、環境面に配慮した活動を行うとともに、新たに以下のような取り組みを実施しました。



### ●視覚障がい者やダウン症患者の皆様をご招待

ワールド・ミス・ユニバーシティ (WMU) 世界大学生平和奉仕使節団等の奉仕団体サポートのもと、700名近くの車イス利用者、視覚障がい者、ダウン症患者やボランティア活動者の

方々を同イベントにご招待しました。

今後も引き続き、エンタテインメントを愛する全ての皆様にご来場いただくため、様々な取り組みや環境整備を推進していきます。

### ●東京公演に参加された方々の声

- 母は「招待して頂けなかったら、たぶんこれほど大きなコンサートに息子を連れて行くことは一度もなかっただろう」と、とても感謝をしています。
- ダウン症の娘は、歌や踊りが大好きなので終始ノリノリで身体を動かしていました。入退場の際、色々配慮いただいたスタッフに感謝しております。

### ●「チーム・マイナス6%」に参加

a-nation事務局は「自然と親しむ、自然と共存する、自然に感謝する」というテーマを掲げ、環境省が推進する温暖化防止プロジェクト

「チーム・マイナス6%」に参加、会場内に同プロジェクトのブースを設置しました。ブース内では、アーティストによる身近な温暖化対策に

### チーム・マイナス6%とは

環境省が、深刻な問題となっている地球温暖化の主要因である温室効果ガスを抑制することを目的とし、組成したプロジェクト。2005年に発効した「京

都議定書」に基づき、温室効果ガスを6%削減するという目標を掲げ、冷暖房の設定温度やアイドリングストップを呼びかけています。 [www.team-6.jp/](http://www.team-6.jp/)

### ●ワールド・ミス・ユニバーシティ (WMU) 世界大学生平和奉仕使節団とは

1986年UN(国連)によって世界平和を祈念して設立された奉仕団体です。毎年世界各国(97カ国)から選抜された知と美を有した優秀な女子大生を「世界大学生平和ボランティア使節団員」に任命し、97カ国の組織委員会指導のもと、世界平和、人種差別撤廃、環境保全、障がい者の社会参加等のボランティア活動を行っています。

関する映像の上映や、スタッフによるプロジェクト参加の呼びかけが行われ、来場者の関心を集めました。

## 地球温暖化防止に関する活動

わが国は、2005年に発効した「京都議定書」に基づき、2012年までに基準年である1990年と比べ温室効果ガスを6%削減することを目標としています。

ところが、2006年度におけるわが国の温室効果ガス排出量は、基準年を6.4%も上回っており、深刻な問題である地球温暖化の防止に、より真剣に取り組まなければいけない状況にあります。

このような状況のもと、当社は、若年層に影響力の高いアーティストや音楽を通じ、地球温暖化の主要因である温室効果ガスの削減を呼びかけるキャンペーンやイベントに積極的に参加しました。

### ●大塚 愛が経済産業省主催のキャンペーンにオピニオンリーダーとして参加

2008年3月、当社所属アーティスト大塚 愛が、経済産業省主催の広報・調査事業「地球 is MY Home. ～温暖化 今、私たちにできること～」にオピニオンリーダーとして協力しました。

同事業は、国民の地球温暖化問題への認識や取り組み等の実態を調査するとともに、この問題に国民のひとりひとりが向き合うことの大

切さを訴求することを目的としています。

「若者による国民運動を促進し、地球温暖化問題に関する国内の気運を高める」という同事業の主旨に賛同し、当社グループは、10代～20代を中心に支持される所属アーティスト大塚 愛を起用、本人のビジュアル及び題字を使用したポスター等により、広報活動をサポートしました。

### ●倅田来未らが「LIVE EARTH」に参加

2007年7月7日、当社所属アーティストである倅田来未、大塚 愛、元氣ロケッツは、世界共通言語ともいえる音楽の力を利用し、環境保全を広く呼びかけることを目的とした世界7大陸同日開催のスペシャルライブ「LIVE EARTH～地球温暖化防止を訴える世界規模コンサート～」に参加しました。

この日、150名を超える世界各国のトップ

ミュージシャンとともに、会場である幕張メッセにてライブパフォーマンスを披露。

同イベントでは、地球環境への負担が少ない自然エネルギーを利用するとともに、収益の全てを地球温暖化の危機解決を目的とするキャンペーン・プロジェクト「SOS (Save Our Selves)」に寄付しました。



## 飲酒運転撲滅キャンペーンに積極参加



わが国では毎年国民の100人にひとりが交通事故により死傷しています。なかでも、飲酒運転に起因する死亡事故に関しては、2006年に福岡県で起きた飲酒運転事故等がきっかけとなり、深刻な社会問題となっています。

こうした風潮のなか、当社所属アーティストは、飲酒運転撲滅をテーマとするキャンペーンやイベント等に参加し、主にアーティストと同世代である若年層に向けて、一瞬の油断や甘えがもたらす悲劇を訴えました。

### ●近野成美が警視庁主催の飲酒運転撲滅キャンペーンに参加

2007年12月1日、当社所属タレント近野成美は、警視庁が実施した「飲酒運転させない TOKYOキャンペーン～銀座パレード～」に参加しました。

同キャンペーンは、飲酒運転に起因する交通事故が多発する年末に、こうした事故の抑止を図ることを目的とし、警視庁が東京都と協同して開催したものです。

近野成美は、銀座外堀通りにて1,700名近くの警察関係者らとともに、銀座外堀通りを行進した後、トークショーに参加、「事故は本人だけでなく、周りの方々にも深い傷を残します。このイベントをきっかけに飲酒運転を絶対にしないという意識が高まることを祈ります。」と飲酒運転撲滅を呼びかけました。

### ●TRFらがエフエム大阪主催の飲酒運転撲滅チャリティイベントに出演

2008年2月20日、当社所属アーティストTRF、MAX、Every Little Thing、BoA、mihimaru GTは、エフエム大阪主催の飲酒撲滅チャリティライブイベント「SDD～STOP! DRUNK DRIVING 2008」に参加し、飲酒運転

撲滅の訴求活動を行いました。

「想像してみてください。飲酒運転の先にあるもの。」というテーマのもと、約10,000名の招待者より募金を募り、その全額を財団法人交通遺児育成基金へ寄付しました。

### 交通遺児育成基金とは

1980年8月、政府と民間団体が、保護者を亡くした子供たちを救済することを目的とし、設立した団体です。現在、1,600人近い遺児が同基金に加入し、養育資金を得て健全に成長しています。



©2007 LIVE EARTH JAPAN

